時事新報

鐵道改良

前號に述べたる如く天然の港灣に人工を施して大に修築を加へ船付の便利を見るに至るも國中の各所より其港灣に達するの聯絡完からざるときは運輸変通の不便は免るゝらず即ち鐵道改良の必要なる所以にして港灣の修築と鐵道の改良と兩々相待て始めて充分の結果を收む可きものなり目下我國の鐵道は官私設合せて二千哩の延長に達し尚は續々計畫の線路も少なからざれども其規模何れも狹小にして目下の必要に應ずるに足らざるは事實と明なる所なり例へば速力の一事に就て云ふも現在の仕組にては青森より長崎に至るに凡そ四日間を要す可し堪へ難き次第のみならず現に過般戰爭中の大輸送に際し當局者は成る可く商賣人事を妨げずして實行の目的なりしかども實際には事の急に迫られ殆んど一般の乘客荷物を度外視して專ら軍事輸送一方を勉めたるにも拘はらず尚は非常の緩慢を免れずして爲めに幾分か軍機の遺算を招きたるみとも少なからざる可し我輩の今に遺憾に堪へざる所なり畢竟みの不便は狹軌鐵道の仕組に免れざるものにして今後線路の延長に從てます〳〵不如意を感ずるのみなれば寧ろ今の中に思ひ切て全國の線路を廣軌に一變せしむるの決斷みを肝要なれ抑も兩軌道の利害は我輩の屢ば論述したる所にして今更ら云々の必要なけれども速力の遲緩運輸力の不足等は狹軌道に固有の欠點のみならず第一に現在の仕組に於て最も不便に堪へざるは新奇の發明工風を利用するみと能はざるの一事なり西洋諸國を見るに鐵道上の發明工風は日新又日新改良進歩日も亦給らざる有樣なれども如何せん其發明工風を我國の鐵道に利用せんとするも彼我その仕組を異にして彼の廣軌道の方法は我が狹軌道に適用するを得ず止むを得ずして舊時の舊式に安んずる次第なれば今後幾年ならずして双方の間に非常の距離を生じ等しく鐵道と名けながら實際の効力を比較したらば全く別物なるが如き相違を見るに至る可し明白の成行にして堪へ難き處なれば仕組の一變は是非とも斷行せざる可らず我輩は其斷行の一日も早きを以て國家の利益と認むるものなり今回政府にては東海道鐵道を複線とするの計畫あり豫算委員の中には異論を唱へたるものあるにも拘はらず結局原案贊成に決したりと云へば多分行はるゝみとならんなれども狹軌道の運命は既に已に明白なるに今更ら複線なるとは二重の手數を掛くるものにみをあれば寧ろ此機會に計畫を一定し全國の官私線を併せて一樣平等廣軌道に一變の決斷を取る可し或は其手段の容易ならざるを疑ふものもあらんかなれども米國などにては幾百哩の鐵道を一夜の間に廣軌道に一變したるの例さへなきに非ず全國一時は行ふも敢て難きに非ざれども我輩の所見を以てすれば斯る急激の手段に由らずとも今の線路を其儘にして汽車の運轉を自由にしながら其線路に並んで別に廣軌の一線を敷きいよ〳〵敷設を終りたる上は其線を取外し又は敷換に着手するとき是迄の狹軌道は合せ見ず全て目的を達す可し或は官線は兎も角も私設會社に廣軌道の注文は到底資力の許さゞる所なれども無理なれども既に仕組の一變と決し本線のみを今の儘に差置くときは實際に改良の効を無にするみとなれば若しも資力の許さゞる場合には政府の費用を以て其工事を負擔し漸次に其價運を納束せしむるも差支ある可らず假りに幾換の費用を一哩に付き二萬圓とすれば全國二千哩の工事は四千萬圓にて成就す可し左まで大事に非ず斯くて港灣の修築と鐵道の改良と兩々相待て海陸交通の便利を全うするときは自から殖産興業の道も開けて商賣貿易の繁昌を見るに至る可し彼の電信電話郵便の擴張の如き國力の發達に必要の事業に相違なしと雖も海陸交通の有樣を今日の儘にして單に電信郵便等の擴張を謀るは恰も神經を鋭敏にしながら手足の運動は之に伴はざるに等し發達の完全なるものに非ざれば何は兎もあれ港灣の修築と鐵道の改良とを國家事業の兩眼目として其實行を先にし國力の發達を全うせしめんことを希望に堪へざるなり

雜報

○系圖釣りと左甚五郎の彫刻

品物に曰くありの文句附を其儘買ふ故系圖買の名を負はするなれば甘まそうな餌を以て此系圖買を釣り寄する奴をば系圖釣りとも評して然からん歟下谷區裁判所管内の公證人にして山村良貴と云へるは下谷區仲徒士町二丁目に住し元は判事をも勤めたるものゝ由にて此男の友人に其名を南利三郎と云へるものあり同區稻荷町八番地に住して骨董屋を業としけるが兩人とも本業の外に土地の賣買を好んで府下の内藤新宿、四谷、赤坂、牛込等近來騰貴の色ある場所は勿論地方にても日光などには兩人共同にて少なからぬ土地を買占め置き其鹿貴を俟つ中に今を去る五年前明治廿四年の五月には露國の皇太子我國に漫遊せらるゝの沙汰あり名駒奇品を到る所に驚はるゝとの噂あるにぞ日頃より投機氣の利三郎は野心勃然禁じ難く殊に露國の公使館へは常々出入して充分の傳手を有するを以て今度ふそは大に奮込で一儲せんと山村と相談を遂げ種々の奇品を蒐むる中には下谷徒士町の同業者竹内嘉右衛門より買入れたる彫刻物あり牡丹に唐獅子の欄間にして如何なる大寺の什物なるか大小六枚無疵の逸品なれば之みを皇太子の氣に召すならんと内心甚だ喜びし甲斐もなや湖南の一條にて皇太子は途中より歸國せられたれば府下の骨董店は皆目算の狂ひし中にも利三郎は大に外れて大損と爲り所有の地所まで抵當に入れて一時を凌ぐに至りたれども尚はそれにても追足ざるが故遂には皇太子を當込んで仕入れたる品物の中彼欄間を除き他の四百餘點を抵當にして一千三百餘圓を借出さんと山村に相談したるに山村は山の村の親類にて上村榮三郎と云ふ金貸あれば之に相談するが宜しかるべし利三郎は山村君の親類なれば貴殿に萬事を托するが近路なる可し萬事宜しく計ひ賜へと頼込で別れたるに山村は早速之を受込で其後利三郎方に至り貸借の約束は出來たれば證文を造りて品物と共に我方へ持ち來るべしとて翌日四百餘點の品物をば山村の家へ運込まれたる後に至り山村は又々利三郎方へ赴きて云ふ樣貸主は今朝品物を見て素人の鑑定にては迚も直段が踏めぬとて斷りたれば折角の厚みも致し方なし唯此上は先日貴殿が他へ抵當に入れし地所を以て一番抵當に入るも氣ありや否やと問ふ故利三郎は甲斐々々しくも其儘のみを今の儘に差置くときは實際に改良の効を無にするみとなれば若しも資力の許さゞる場合には政府の費用を以て其工事を負擔し漸次に其價運を納束せしむるも差支ある可らず假りに幾換の費用を一哩に付き二萬圓とすれば全國二千哩の工事は四千萬圓にて成就す可し左まで大事に非ず斯くて港灣の修築と鐵道の改良と兩々相待て海陸交通の便利を全うするときは自から殖産興業の道も開けて商賣貿易の繁昌を見るに至る可し彼の電信電話郵便の擴張の如き國力の發達に必要の事業に相違なしと雖も海陸交通の有樣を今日の儘にして單に電信郵便等の擴張を謀るは恰も神經を鋭敏にしながら手足の運動は之に伴はざるに等し發達の完全なるものに非ざれば何は兎もあれ港灣の修築と鐵道の改良とを國家事業の兩眼目として其實行を先にし國力の發達を全うせしめんことを希望に堪へざるなり

○淨玻璃の鏡

掬月庵主しら譯補

第九回 雪中の花（上）

哀れなる故奴隷のれ冬、慳貪老爺の鬼神に素氣なくも追出されし其日より何處を當に取着く嘱も荒海の浪に揉まるゝ捨小舟、彼方へ行きては突き放され此方へ寄りては斷られ切辛き世の人情を彼處此處へ彷徨つゝ些づゝの合力に露命を繋ぎ來りし其内、只ある羅馬舊教信心の尼微妙とて最と情深き老媼に助けられ其が住家なる山中の庵室に伴はれて厚き因果の教訓に浮世の夢を醒ひる行澄ませし生涯も早や二月を過ごせし時れ冬は玉の樣なる男子を生みけり過行く月日に關守はなく生落したる男子蝶吉も茲年は既に十三歳と云へる時れ冬は正しく天の告なるか判事貞光が誰とは確ならねど奇麗な若き婦人と情を通じて遊び戯るゝ由世人は得知らぬ事の次第を聞ては有繋凡夫の誠さ悔しさ禁じ難く「已れャレと憎ム心を深くも包めど穏に現はるゝ顔色の常ならぬに微妙は何處ぞ加減でも惡きや」と問試るに否とよ些風邪の心地する許りにみを御心をな煩はし給ひぞ」と口には軽く答ふれども冬は心中、彼の薄情男に重なる魂の數々を聞かさでは得止まじと思案を定め或日の夜さり庵主微妙が閨に退りし其後に「再生の恩あるのみか難有き法の教をさへ賜りし御師匠樣に此年月の厚き御情をも顧ず今更ら元の煩惱無明の身に歸り此清淨無垢の庵室を出去らんみと物體なしとも空恐しとも云はん方なけれど」斯く〳〵の次第なれば此度の事の次第を書記し「斯くては既に貴き千部萬部の讀經の聲も心耳に徹らぬ浅ましき怨恨の淵に水底に沈み切たる賤女の假令ひマリアやキリストが再び此俗界に生來て御口ずから教を賜ふとも浮かばんみ便ヨモあ申じとぞ思ふなるを赦して給はれ微妙樣、御詫は無間の地獄とやらより申し侍らん」云々の文一枚を書認し蝶吉が手を引て山路を辿り行く折しも繁く降來る白雪に四邊麓々として咫尺を辨ぜず母が持病の癪氣に苦むを蝶吉は甲斐々々しくも其儘のみを今の儘に差置くときは實際に改良の効を無にするみとなれば若しも資力の許さゞる場合には政府の費用を以て其工事を負擔し漸次に其價運を納束せしむるも差支ある可らず假りに幾換の費用を一哩に付き二萬圓とすれば全國二千哩の工事は四千萬圓にて成就す可し左まで大事に非ず斯くて港灣の修築と鐵道の改良と兩々相待て海陸交通の便利を全うするときは自から殖産興業の道も開けて商賣貿易の繁昌を見るに至る可し彼の電信電話郵便の擴張の如き國力の發達に必要の事業に相違なしと雖も海陸交通の有樣を今日の儘にして單に電信郵便等の擴張を謀るは恰も神經を鋭敏にしながら手足の運動は之に伴はざるに等し發達の完全なるものに非ざれば何は兎もあれ港灣の修築と鐵道の改良とを國家事業の兩眼目として其實行を先にし國力の發達を全うせしめんことを希望に堪へざるなり

し�て遂に千四百圓の證文を造り之を山村に渡して金は明朝までと約束して別れたるが其後利三郎は山村を尋ねて金の事を問ふに山村は親切らしく彼金は既に請取りて我手中にあれども今日之を貴殿に渡せば最初一番抵當に取りし人より二番抵當に對し背信の起らんみと明白なれば暫く辛抱して時日の經過を俟可し證文の時日さへ過れば苦情を言ふも跡の祭りならずやと其だ分別らしき話に利三郎も其氣と爲り其儘に別れたれば茲に山村は品物と地所との抵當證書二通を握り且つ四百餘點の骨董さへ預かりし儘と爲りぬ後に至りて此事が苦情の基とならんとは水魚の中の親友も油斷のならぬ世なりけり然るに又話説變つて上州の館林に天福寺と云ふ有名の巨刹あり其本堂の欄間は古來左甚五郎の作と稱して大切に保存し置きたる所近來雷塲大破に及んで佛法の末世と爲りたれば此欄間をば取外して仕舞置しに去る二十四年の春盜難に罹りて紛失したれば住持の驚愕は素より檀下の心配も一方ならざりき（つゞく）

役所

○ひかしの受付

歸りて迭に悲なきを悦び語るの幾火の光を便にや後ろの小ドンと一發、騒例に華々しく消ゲる女の一聲、曲者は仕済りしが惡運愛に竭きたるか遂て撞と落たる母子の間、苦れ冬は見るより白妙の雪を胸前より逃るを左手に押え右手に蝶吉よ何者なれば年齢も行人、雪を冒して進行く便少へず斯く暗々と狙撃たる曲者の衣囊品もやゆる疾く曲者のチョッと云はれて蝶吉曲者のして一封の依願狀わり拠みを見るに

我等過る年、無條件讓切の奴隷れ冬の儀實は我等の胸みれを明さゃりしは此方に分に手當を遣し候條汝に及び我等も滿足に存候着致さゃる前に れ冬は其方に孕女の厄介拂ひ殊には尾候へ共尚は用心の爲め右庫められて其庫室に讀經三時の弊もなき寶女の發心、我等が手先の探偵を交へ我等が註進に據るに彼奴め何處が註進に據るに彼奴め何處が左る婦人に關係せしそれた此判事貞光に向て殺も笑止の次第なれど千里の ム、油斷は難成きに依り汝なると殊に祀衛に妙を得たのれ冬めを唯ち義に候高う依頼するは此 殺すも生かすも誰が何と云等の子なれど福樣の中より に相違なき母の入智慧、情此仕事首尾よく仕終候はば事相違なし後日の爲め依て